

「しなやかな心の育成推進事業」について

しなやかな心の育成推進事業

山梨県教育委員会では、

小学校・中学校・高等学校が、それぞれ学校における道德教育の充実に努めるとともに、学校、家庭や地域及び関係機関等と連携・協力した取組を展開し、県民総ぐるみで、子どもたちの「しなやかな心の育成」を推進していきます。

～ 学校における道德教育の充実 ～

小・中学校における道德教育

道德教育推進事業

- ・「特別の教科道德」授業づくり研修
- ・道德教育研究推進校の指定
- ・道德教育推進協議会
- ・道德教育推進運動

高等学校における道德教育

高校道德教材の活用

- ・教材「自分との出会い」の活用
- ・LHR等で活用し、道德教育を充実
- ・高等学校道德教育研究協議会
- ・高等学校道德教育実践報告研究会

～ しなやかな心の育成プロジェクト ～

このプロジェクトにおける「しなやかな心」とは、

- ・自分や他人の多様な生き方や考え方、存在を認め合う柔軟な心（自他を敬愛する心）
- ・困難や挫折に直面しても、粘り強く最後まで諦めない心

を指しています。

小・中学校

「しなやかな心の育成」
アクションプラン
学校生活の中から自分と他者との
関わりを見つめる。
「しなやかな心の育成」講演会

高等学校

通学時マナーアップ運動
通学時や日常生活における自分と
他者とのかかわりを見つめる。

「しなやかな心の育成」講演会

家庭・地域

学校・家庭・地域で育む「しなやかな心」

- ・「やまなし ファミ・コミ・スクールコミュニケーション運動」
- ・・・学校・家庭・地域でそれぞれの役割を活かし、山梨の豊かな繋がりで連携・協働することにより、しなやかな心を育む運動を県民総ぐるみで行うため、周知・啓発を図る

家族で育む「しなやかな心」

- ・家読（うちどく）推進運動・・・家族みんなで本を読み、話し合い
- ・家族で「元気アップ」・・・「大きな声であいさつ」「あそびや運動」

「しなやかな心の育成」シンポジウム

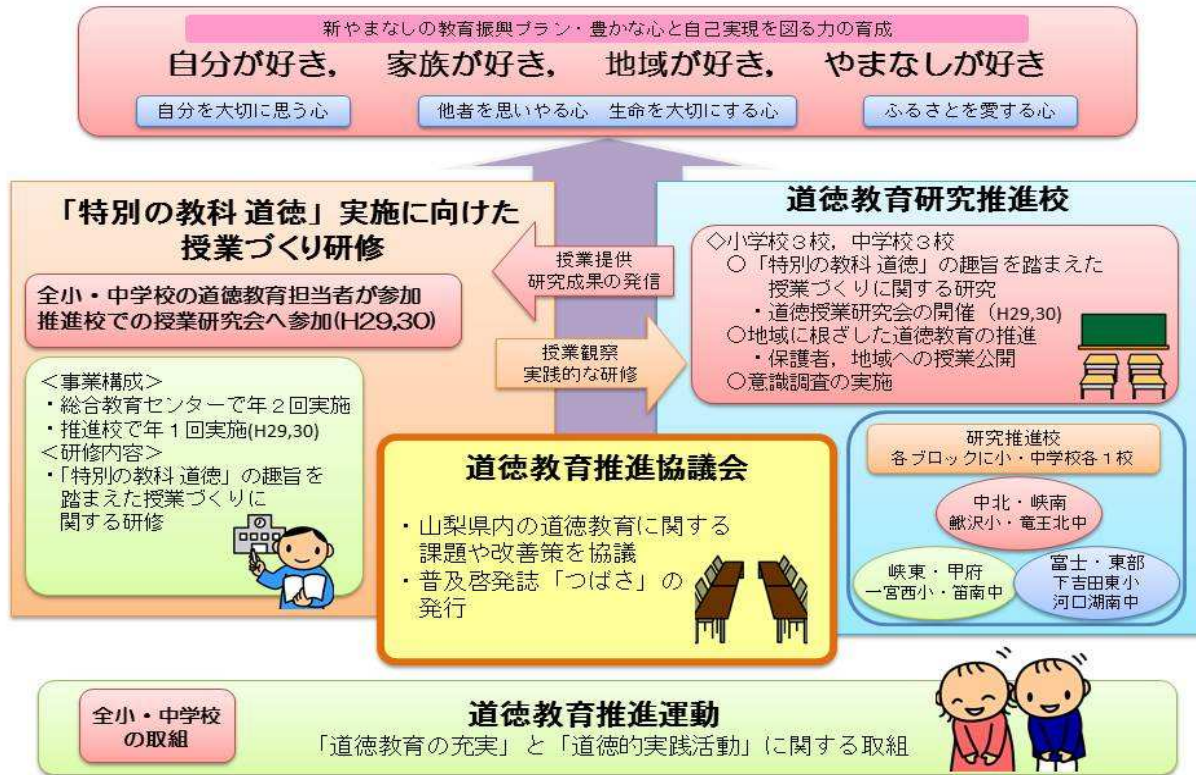
- ・各校の取組の実践報告をもとに、「諦めない心を育む」観点から、学校保健関係者・地域保健関係者・保護者・大学生と大学教員・各分野の専門家を講師・コメンテーターとする、シンポジウムを実施。

「しなやかな心の育成」フォーラム

- ・保護者や地域の人々など、広く県民が参加するフォーラムを開催

1 やまなし道徳教育推進事業（H28～H30）

やまなし道徳教育研究推進事業（H28～30）



2 「しなやかな心の育成」アクションプラン

1 目的

道徳教育重点目標に沿った道徳的实践と，実践を通して学んだことを道徳の時間（道徳科）で見つめ直すことにより，しなやかな心の育成につなげる。

2 成果

各学校，自校の道徳教育重点目標に沿って工夫した取組が行われた。

児童会や生徒会を中心に，友達のよさを見付け，掲示物で紹介する取組を行い，道徳科で「相互理解，寛容」について考える授業を行ったという実践などが報告されている。

なお，今年度の取組内容，評価方法については「道徳教育推進運動実施状況調査」により報告することとなっている。（平成30年1月26日〆切）

3 「しなやかな心の育成」講演会

1 目的

様々な分野で活躍する地域の人を，子供たちの「しなやかな心の育成」に関わる講演会や学習会に講師として派遣することにより，子供たちがこれまで以上に地域の様々な人や文化に触れ，人格を形成していくことを目的とする。

2 成果（小学校6校・中学校2校）

- 北杜市立明野小（9/8）
- 甲府市立新田小（11/10）
- 南アルプス市立白根御勅使中（10/11）
- 甲斐市立敷島小（11/14）
- 昭和町立押原中（10/25）
- 市川三郷町立六郷小（H30/1/17 予定）
- 笛吹市立御坂東小（10/3）
- 笛吹市立境川小（H30/1/中下旬予定）

平成 29 年度しなやかな心の育成推進事業〔高校教育課事業報告〕

しなやかな心の育成プロジェクト

1 「高等学校通学時マナーアップ運動」

「さわやかに通学しよう」をキャッチフレーズに、保護者や関係諸機関と連携し、通学時における高校生のマナーの向上、あいさつの励行により、自他を大切に、他者を思いやる「しなやかな心」を育む。



【概要】

日時 年間 5 回（水曜日）、登校時（午前 7 時 40 分以降）
（5 / 17、6 / 21、9 / 20、11 / 15、1 / 17）

内容

交通安全街頭指導（バイク・自転車・徒歩による通学）、電車・バスの乗車マナー（電車・バスによる通学）の指導等、各学校で実施してきた指導を、県内の高等学校が一斉に実施した。教職員、保護者、地域及び交通機関、警察等関係諸機関等が連携し、あいさつの励行や、ルールを守り、マナーを向上させる指導を行った。

2 「しなやかな心の育成」講演会

様々な分野で活躍する方を講演会等に講師として派遣することにより、生徒が多様な価値観、生き方や考え方を学び、自分自身の生き方、在り方を考え、自ら「しなやかな心」を育む。

【内容（講演題目等）】 11 校

「命の大切さを学ぶ授業」犯罪・交通事故被害者の遺族（富士北稜 5/12）

「命の大切さを学ぶ授業」犯罪・交通事故被害者の遺族（甲府南高 9/8）

「スタントマンによる自転車事故の再現と交通事故から

身を守る術について」スーパードライバーズ代表：中島啓介氏他 5 名
（都留興譲館 9/12）

「人生について」NPO 法人地域資料デジタル化研究会代表：小林是綱氏
（甲府第一高 9/15）

「命の大切さを学ぶ授業」犯罪・交通事故被害者の遺族（都留高 9/15）

「ストレスマネジメント」山梨英和大飯田敏晴助教（中央高 9/27）

「いじめについて」LINE(株)藤井さやか氏（山梨高 9/27）

「地域を知ることの重要性について」

県中北教育事務所地域教育支援スタッフ矢崎克洋氏（韮崎高 11/8）

「命の大切さを学ぶ授業」犯罪・交通事故被害者の遺族（甲府工業 12/12）

「子供の貧困について」全国フードバンク推進協議会：米山けい子氏（増穂商業 12/13）

「いのちの授業」NPO 法人いのちの教室理事長：若尾久氏（甲府昭和 1/9）



道徳教育の充実

1 道徳教材の活用

本県の実態に応じて作成された高等学校道徳教材「自分との出会い」を LHR 等で活用し、高等学校における道徳教育の課題を明らかにするとともに、今後の効果的な指導方法等の在り方を探る。

2 高等学校道徳教育研究協議会（副校長・教頭研究協議会） 総合教育センター 8/18

講演会を実施し、道徳教育への理解を深めるとともに、道徳教育に関する課題の共有と改善策等について検討し、道徳教育の推進を図る。

【内容・講師】

「これからの生徒指導・道徳指導に必要な視点」国立教育政策総括研究官：藤平敦氏

3 高等学校道徳教育実践報告研究会（生徒指導主事研究協議会）総合教育センター 9/19

各校の道徳教育の現状や課題、教材の活用等について研究協議を実施するとともに、学識経験者等の講演、指導助言から、高等学校における道徳教育の改善を図る。

【内容・講師】

「子供の問題行動とその対応について」ラポール・トーク・コミュニティ代表：内藤佑氏

4 教育相談研究研修会（教育相談研究協議会） 総合教育センター 12/11

各高等学校の教育相談担当者が、各校の教育相談の現状や課題について協議し、生徒の考え方、実態を共有する中で、道徳教育の課題を顕在化させ、その充実を図る。

【内容】

スクールカウンセラー 4 名を助言者として、教育相談担当者による各学校の教育相談の現状や課題について研究協議を実施した。

平成29年度 社会教育課事業について

(1) 平成29年度版「家読(うちどく)100選」パンフレットの配布

「家読100選」パンフレットとは

- ・「子どもに読んでほしい本」「一緒に読みたい本」を県民から公募し、図書館司書をメンバーとする選定委員会による推薦図書も含め、県立図書館長監修の下、年齢層ごとに推薦する図書を紹介するパンフレット。

取り組み

- ・H29年度に実施した「家読ポップ展」で入賞した作品を表紙に掲載し、入園児(3歳児)新1年、新3年、新5年、新中1の児童・生徒に配布し、家読への取り組みを推進した。
- ・また、高校生は各学校に3部配布した。

(2) うちどくポップ展の開催

うちどくポップ展とは

- ・家読100選、または、それ以外の図書の中から一番お勧めしたい図書を紹介するポップを募集する。
- ・家読100選推薦図書以外の本も対象とし、さらなる家読への興味関心につなげるとともに、応募数の増加を図った。

取り組み

- ・県内の幼稚園、保育所、小中高等学校より作品を募集し、全応募作品を防災新館一階オープンスクエアにて展示(H29年度は2月10日~2月15日実施予定)、各部(幼、小低・小中・小高学年、中、高)優秀作品を表彰する。

(3) やまなしファミ・コミ・スクールコミュニケーション運動の推進チラシの作成配布

やまなしファミ・コミ・スクールコミュニケーション運動とは

地域・家庭・学校の理解を得ながら、各役割を發揮し、子ども同士、子どもと大人のコミュニケーションを活発化することで、しなやかな心の育成の一助とする。

取り組み

- ・県民への浸透を図るため、やまなしファミ・コミ・スクールコミュニケーション運動を啓発するチラシ内容の検討。
- ・今までの運動をより多くの県民に浸透させることを目的として、チラシ・ポケットティッシュの配布を行うことでさらなる啓発運動をすすめる。

うちどくポップ展チラシ
(H29)



家読100選パンフレット
(H29)



ファミ・コミ・スクールコミュニケーションポスター
(H29)



平成 29 年度しなやかな心の育成推進事業〔スポーツ健康課事業報告〕

1 「家族で元気アップ！」教室の開催

- (1) 目的 家族で遊びや運動に取り組むことで、子どもたちの活力を引き出し、「しなやかな心」の育成を図る。
- (2) 日時 平成 29 年 10 月 14 日(土) 9:45 ~ 11:40
- (3) 場所 小瀬スポーツ公園体育館 サブアリーナ
- (4) 講師 山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 学科長 高野牧子 先生
- (5) 参加対象 幼稚園児及び小学校低学年(3年生以下)の児童とその保護者
- (6) 内容 〔実技〕親子で楽しく運動遊び ~こんな遊びできるかな?~
親子で準備体操
親子で運動遊びサーキット(6種目)
タオル、新聞紙、風船など、身近にあるものを利用して、楽しくできる運動遊びを体験
全員で鬼遊び「リバーシ 鬼ごっこ」

2 「家族で元気アップ！」リーフレットの作成・配付

- (1) 目的 幼少期から家族で運動に取り組むことで子どもたちの活力を引き出し、体を動かす遊びの中から健やかな体と豊かな心を育むために、啓発リーフレットを作成する。
- (2) 配付先 公立幼稚園児、小学校1・2年児童
- (3) その他 リフレットの内容をもとに、来年度も「家族で元気アップ！」教室を開催予定。



3 「子どもの心の健康づくりシンポジウム」の開催

- (1) 趣 旨
近年、子どもたちを取り巻く社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもたちの健康に大きな影響を与えている。特に、心身の両面に関わる健康課題をより複雑化させている。人間関係のトラブルでのつまずきの多さや家族関係の不安定さなどを抱えている子どもの中で、課題を乗り越えられる子どもとそうでない場合の差が見られる。すべての子どもが困難や挫折に直面しても、粘り強く最後まで諦めない心を育むために、学校保健活動や、保健室での日々の関わりを通して何ができるか、医療、心理関係者からの提言を踏まえ考えていきたい。それにより、しなやかな心の育成むけての各学年の取組の手立ての向上と関係者との連携づくりの機会としたい。
- (2) 日時 平成 29 年 12 月 8 日(金) 午後 1 時 30 分 ~ 4 時 30 分
- (3) 会場 山梨県立文学館 講堂
- (4) 参加対象
・ 県内幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員
・ 市町村(組合)教育委員会学校保健関係職員
・ 保護者
・ 子どもの健康づくりに関わる地域関係者
- (5) 内容・講師・シンポジスト
基調講演 「子どもの心と脳の育ちについて」
山梨大学大学院・医学工学総合研究部 教授 相原 正男 先生
- シンポジウム
・ テーマ 「人と人との関わりを考える
~褒めることと認めること・怒ることと叱ること~」
- ・ シンポジスト
山梨大学大学院・医学工学総合研究部 教授 相原 正男 先生
(福)ひとふさの葡萄 理事長 臨床発達心理士 三尾 馨 先生
南アルプス市立芦安小学校 教頭 樋川 和之 先生
市川三郷町立市川中学校 養護教諭 望月 理香 先生
- ・ コーディネーター
身延町立身延清稜小学校 養護教諭 有野 久美 先生